

# 施設栽培コマツナのコナガの緊急防除対策

農業試験場 主任研究員 井口 雅裕

## 【要約】

スピノシン系やアベルメクチン系など4系統の農薬が有効であった。また、農薬以外の防除方法として、性フェロモン剤による交信攪乱効果(\*)が高いこと、目合い1mmの防虫ネットを展張すると成虫の侵入防止効果が高いことを明らかにした。



コナガ幼虫



コナガ成虫

\* 交信攪乱とは・・・  
コナガの雄は、雌が出す性フェロモン(匂い)を頼りに交尾相手を探す。化学合成した性フェロモン剤を設置するとこの交信が阻害され、雄は雌の居場所がわからなくなる。

## 【背景・ねらい】

平成26年(2014年)以降に和歌山市(名草地区、河西地区)の施設栽培コマツナでコナガが多発生し、被害が問題となっていた。そこで、コナガの防除対策を確立する。

## 【成果の内容・特徴】

### 1) 有効農薬の解明

ジアミド系殺虫剤をはじめ多くの農薬に対する感受性が低下していた。ディアナ SC とスピノエース顆粒水和剤(いずれもスピノシン系)、アフーム乳剤(アベルメクチン系・ミルベマイシン系)、BT 剤、プレオフロアブルが有効であった(図1)。

### 2) 性フェロモン剤による交信攪乱効果

7月または8月に交信攪乱用性フェロモン剤「コナガコン-プラス」を10a 当たり 20 m設置すると、高い交信攪乱効果が3か月間に渡って認められた(図2)。

### 3) 防虫ネット利用による防除効果

ビニルハウスの開口部に目合い1mmの防虫ネットを展張すると、成虫の侵入を防ぎ、防除効果が高かった(データ省略)。

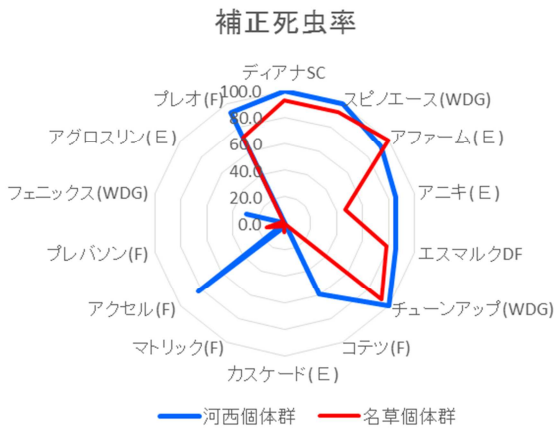
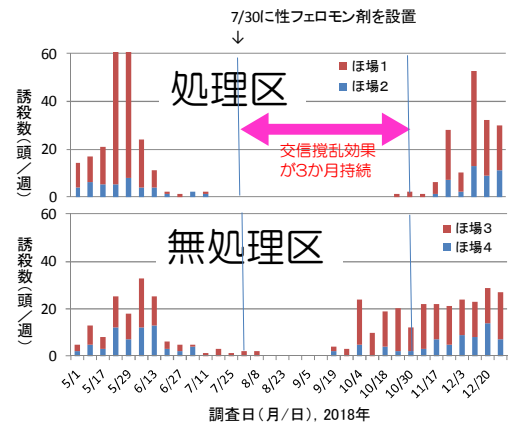


図1 コナガ3齢幼虫に対する各種農薬の殺虫効果



発生予察用フェロモントラップによるコナガ雄成虫誘殺数

図2 性フェロモン剤設置による交信攪乱効果